

講義名	社会開発論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	的場 竜一		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>本講義ではアジア新興国の社会開発について、中国を事例にしながら考えていきます。アジア諸国は大きな経済成長をみせていますが、その裏では格差の拡大、教育の未定着、社会保障制度の不備、少子高齢化問題など様々な課題を抱えています。日本と比較しながら新興国の社会開発のあり方を検討していきます。新聞記事や映像資料などを用いて具体的なイメージを持ちながら講義を進めていきます。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 社会開発とはなにかを理解する。 2 アジアにおける社会開発の事例を学ぶ。 3 経済成長に伴う負の側面を考える。 4 社会開発について自分なりの意見を持てるようになる。

提出課題
<p>毎講義でコメントカードの提出を求めます。また講義の進捗状況によってはミニテストを入れることがあります。</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>コメントカードについては、質問等を記入してもらい、次の講義でなるべく質問に答えるようにしています。また、優れたコメントがあれば匿名にて適宜紹介し、社会開発についてどのように考えるべきかを検討します。</p>

評価の基準
<p>受講態度やコメントカードなどの平常点40%、レポートおよび定期試験60%とし、総合的に判断します。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>新聞記事の紹介や時事問題の解説などをおこなうので、日常的にニュース等に関心を持つことを心掛けておいてください。また、周囲に迷惑をかけるため私語は慎んでください。</p>

教科書
<p>.使用しない。.</p>

プリント資料及び参考文献
<p>毎講義でプリントを配布します。参考文献は適宜紹介しますが、以下を推薦します。 アマルティア・セン（翻訳：池本幸生・野上裕生・佐藤仁）『不平等の再検討 潜在能力と自由』岩波現代文庫、2018年。 高橋和志・山形辰史編『国際協力がってなんだろう 現場に生きる開発経済学』岩波ジュニア新書、2010年。 遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太編『現代アジア経済論 「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣、2018年。</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 中国の経済成長 2. 社会開発とはなにか 中国の自動車、IT、人工知能、ロボット、自動運転 3. 社会開発とはなにか 中国の抱える課題、格差貧困、教育問題、少子高齢化 4. 社会開発とはなにか 近代の到来と科学的管理法 5. 社会開発と社会システム 大量生産・大量消費の時代 6. 社会開発と社会システム 日本における社会開発 7. 社会開発と社会システム 中国の社会システムと一帯一路構想 8. 社会開発と社会システム 中間試験 9. 中間試験 10. 中間試験の振り返り 11. 経済成長と公害問題 日本の公害問題 12. 経済成長と公害問題 中国の公害問題 13. 社会開発と経済開発 社会開発の必要性 14. 社会開発と経済開発 だれが社会開発の担い手なのか 15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>予習はとくに必要としませんが、国際情勢などに関するニュースを積極的にアクセスしてください。復習は講義毎に90分を目安とします。配られたプリントと講義中の発言をメモし、復習の際にはしっかりと目を通してください。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
<p>私語などによって周りの学生に迷惑をかける人には退室をしてもらうこともあります。また、進捗度合いによっては授業計画を変更します。</p>